



三城ものがたり

やさしく かしく たくましく

令和7年4月18日
大村市立三城小学校
発行 石司 貴弘

1年生の 日一日の学び ～小学校の生活リズムを体感しています～

☆幼児期の教育・保育との違い

幼児教育段階では、「〇〇ができるようになる」という到達目標はありません。「〇〇の芽生えを養う」というように、成長・発達の基礎を培うことが目標とされています。

一方、小学校では各教科等ごとに身に付けさせなければならない内容が定められており、そのために必要な授業の時数も決まっています。だから時間割があって、各担任が学習効果が高まるように工夫しながら授業を計画していきます。

幼児教育段階では、子供一人一人が、自分の興味・関心があることにある程度自由に取り組むことができました。ところが、小学校での学びは基本的に「指導計画・時間割」に沿って進められます。このことが子供たちにとってはストレスとして感じられるケースがあるかも知れません。

だから、教職員は子供が学習に興味を持てるように「学習のはじまり」に力を入れます。「おもしろそう!」「やってみたい!」「できるようになりたい!」そんな動機を抱けるような学習内容との出会わせ方を工夫しています。

☆どきどき・わくわくの入学式

少し緊張気味で教室に入りました。新しいお友達、先生と出会いました。これから始まる1年生の生活に胸を膨らませています。入学式では、自分のお名前が呼ばれると、しっかりと返事をしてお辞儀をする姿がとても立派でした。



☆始業前…持ち物の整理、整とん

7:45分ごろには1年生の子供たちがすべて教室にそろっています。おかげで慌てることなくゆったりと一日の学びが始められます。こういったところからも保護者の皆様のご協力の様子がわかります。本当にありがたいことです。

それから、頼りになるのが6年生のみなさんです。1年生の教室で机の中の物のそろえ方、ロッカーへのランドセルのしまい方、帽子や水筒などの片付け方を手取り足取り教えます。微笑ましく、なんと美しい姿だろうと思うのです。

ただし、何でもかんでも「やってあげる」のではなく、やり方をやさしく教えて、1年生に自分でやらせてみて、できるまで見守っています。最高学年としての自覚、誇りがうかがえるようでとてもとても素晴らしいと思います。



学びを紡ぐ ものがたり



☆見る 聴く 読む 書く 話す(表現する・伝える)

学校での生活・学習は人とかかわりの上に成り立ちます。集団で学ぶためには、基本的な約束事やマナーを守る必要があります。これは大人の社会でも同様で、子供たちも学級という「社会」で、お友達とよりよくかかわるための基本的なことを身に付ける必要があります。1年生担任は、決して上から押し付けることなく、一つ一つのことの意味をかみ砕いて理解させています。



☆「なんて いおうかな」 人とかかわる言葉

職員室や保健室などの特別な部屋に入る時は、なんて言えばよいのでしょうか？ 担任は、子供たちに問いを投げかけます。勝手に入ることはできません。先生にあいさつをしてから入ります。「1年1組の〇〇です。 □□先生に用があつて来ました。

入ってもいいですか？」

考えてみると、大人の社会でも常識的なことです。1年生の子供たちは、将来ずっと使える「一生もののスキル」を身に付ける学習をしています。



☆自分の命を 自分で守る(正しく、安全な登下校)

最も重要な学習といえるでしょう。学校の行き帰りや自宅の周りで遊んだりする時の道路の安全な使い方を学びます。下校では、できる限り同じ方向のお友達と一緒にまとまって歩きます。寄り道をしたり、違うルートを通ったりせずに、まっすぐ家に帰るように確認していきます。



☆みんなで食べる おいしい給食

17日(木)から給食が始まりました。

- ・きれいに手を洗って身支度(マスク)を整えます
- ・当番のお友達は白衣を身に付け、配膳をします

みんなが気持ちよく食事を楽しむためには、当番もそれ以外の子供もやるべきことがあります。自分勝手なことをしてしまうと、周りに人に迷惑をかけてしまうことを体験的に学びます。



1年生の子供たちが毎日多くのことを体験し、考え、できることを増やしています。ご家庭でも話題にしてみてください。お子さんの頑張りにぜひ「称賛」の言葉かけをいただければ幸いです。